

避難所選定

1. 想定される村内の浸水深と浸水期間

- (1) 堤防が全てが機能しないと仮定した場合、浸水域は村内の全域に及ぶ。
- (2) 現況の避難所の周辺は2.0m～3.0mの浸水深となる。

参考として、想定される浸水深及び、その浸水期間は伊勢湾台風時と同程度となる。

表-1. 現況の避難所一覧

避難場所名	耐震改修の有無	所在地	収容可能人員(人)
やすらぎの里デイサービスセンター	-	大宝字八島113番地の1	169
飛島村産業会館	改修済み	大字松之郷1丁目41番地の1	62
飛島学園	新基準	大字松之郷3丁目21番地	426
飛島村すこやかセンター	新基準	大字松之郷3丁目46番地の1	202
飛島村総合体育館	新基準	竹之郷3丁目1番地	726
飛島村中央公民館	新基準	竹之郷3丁目1番地	258
飛島村敬老センター	耐震性あり	竹之郷5丁目43番地	167
旧飛島中学校	改修済み	大字飛島新田字竹之郷5番地	447
飛島村第一保育所	耐震性あり	大字古政6丁目1番地	143
飛島村公民館分館	改修済み	木場2丁目3番地	447
		合計	3,047

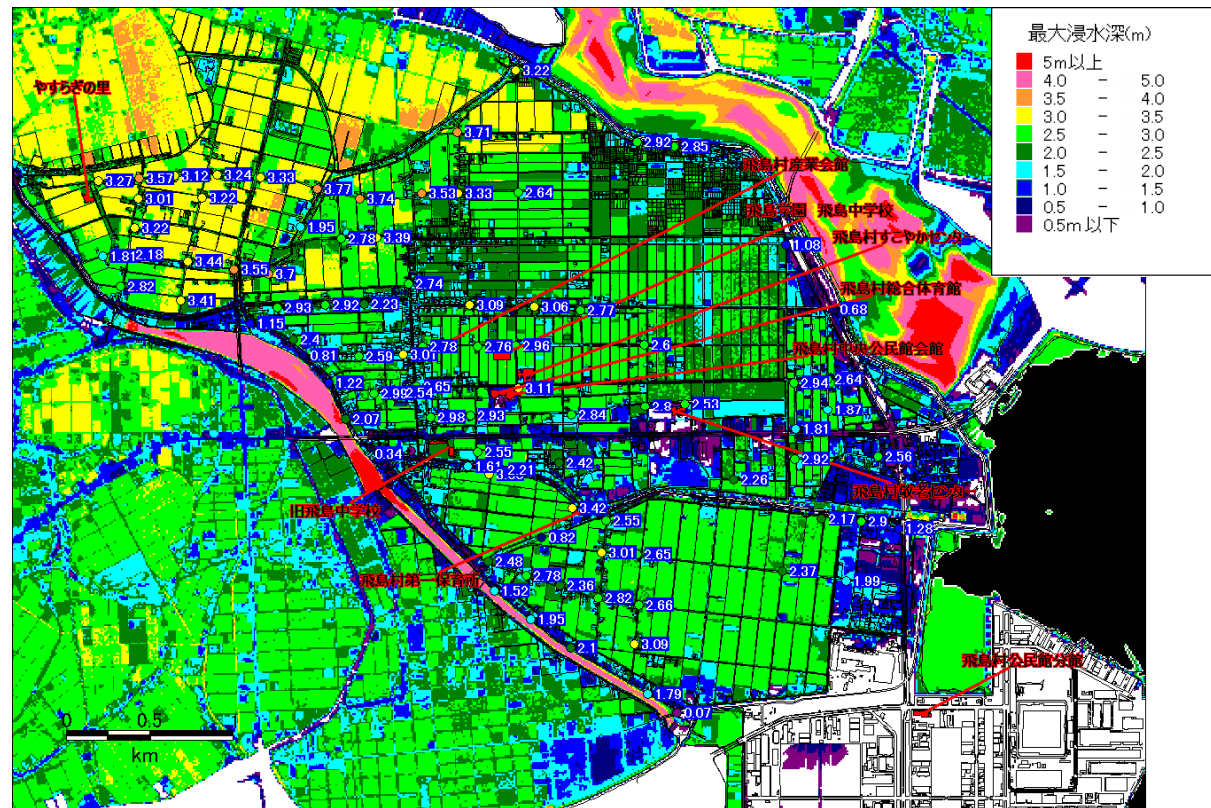


図-1. 浸水深分布_Mw8.8 (図内の青枠内数値は伊勢湾台風被災水位)

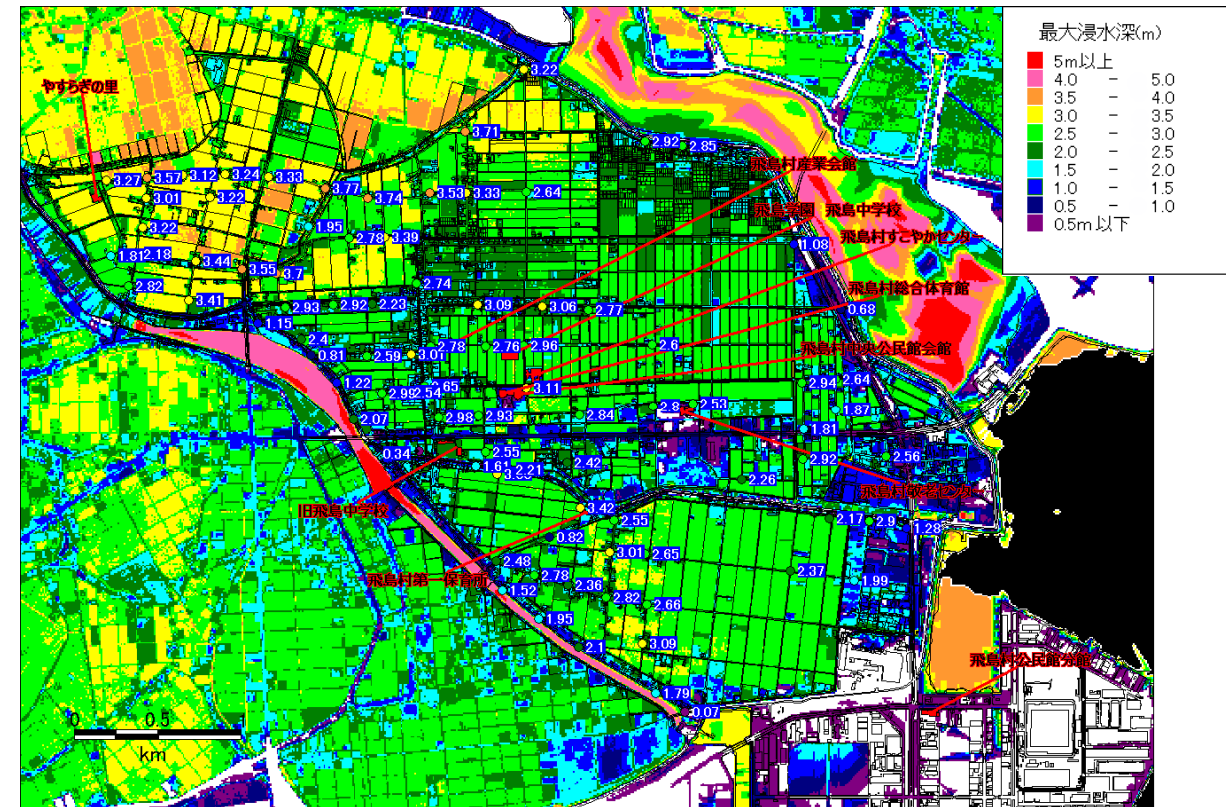


図-2. 浸水深分布_Mw9.0 (図内の青枠内数値は伊勢湾台風被災水位)

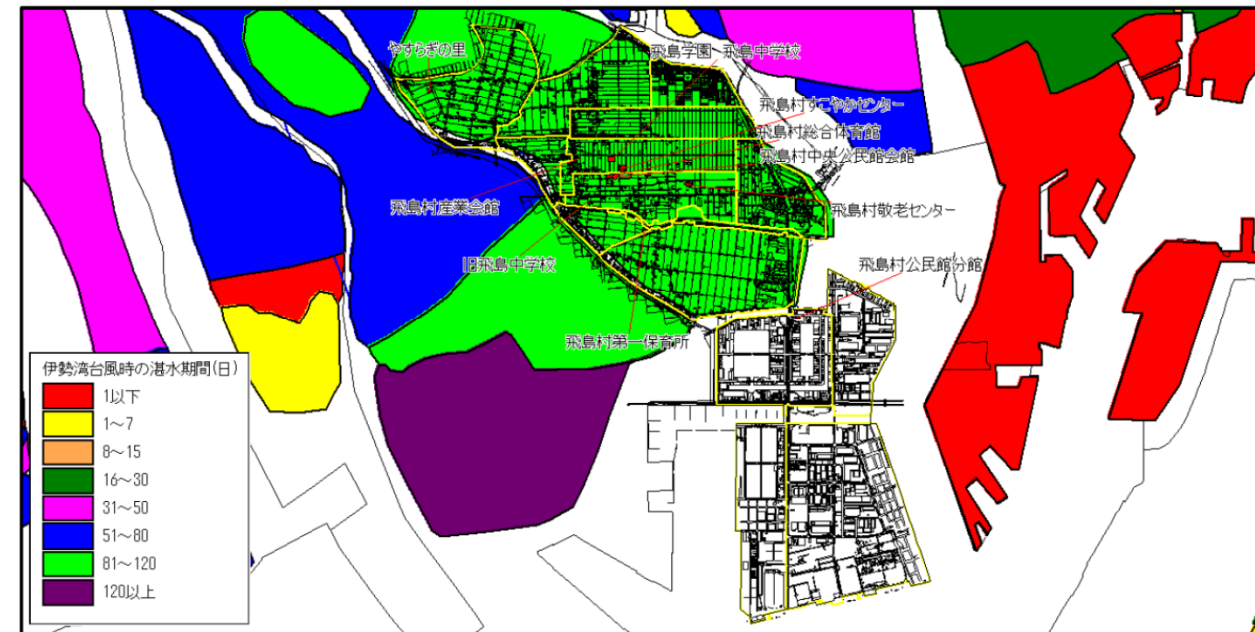


図-3. 伊勢湾台風被災時の浸水期間

避難所選定

2. 現況の避難所について

- (1) 人口の多い地域(役場周辺)には、避難所が集中しており、当該地域の住民の収容には若干の余裕がある(表-2、図-4)。
- (2) 大宝、古政成には避難所が存在するものの、収容人数が人口に対して不足している(表-3、図-5)。
- (3) 梅之郷、三福、服岡、新政成には避難所が存在しない。(表-3、図-5)。

表-2. 現況の避難所の収容人数と人口分布(1)

ID	字名	行政境界名	住民基本台帳人口 (外国人登録人口含む)	行政境界毎 人口	現況の避難所 収容可能人数
1	大用水	元起	158	427	-
2	中江		93		
3	汐除		176		
4	南竹之郷	竹之郷	161	622	1,598
5	北竹之郷		461		
6	南枕江	松之郷	212	520	690
7	北枕江		308		
8	中用水	渚	225	451	-
9	上用水		226		
合計			2,020	2,020	2,288

※住民基本台帳人口は平成24年2月1日時点

表-3. 現況の避難所の収容人数と人口分布(2)

ID	字名	行政境界名	住民基本台帳人口 (外国人登録人口含む)	行政境界毎 人口	現況の避難所 収容可能人数
10	梅之郷	梅之郷	236	236	-
11	三福	三福	132	132	-
12	笹乃郷	服岡	161	605	-
13	泉之郷		118		
14	古台		326		
15	大宝西	大宝	152	692	169
16	大宝東		173		
17	重宝		231		
18	八島		136		
19	北古政	古政成	220	434	143
20	南古政		214		
21	西新政	新政成	229	571	-
22	東新政		198		
23	北新政		144		
合計			2,670	2,670	312

※住民基本台帳人口は平成24年2月1日時点

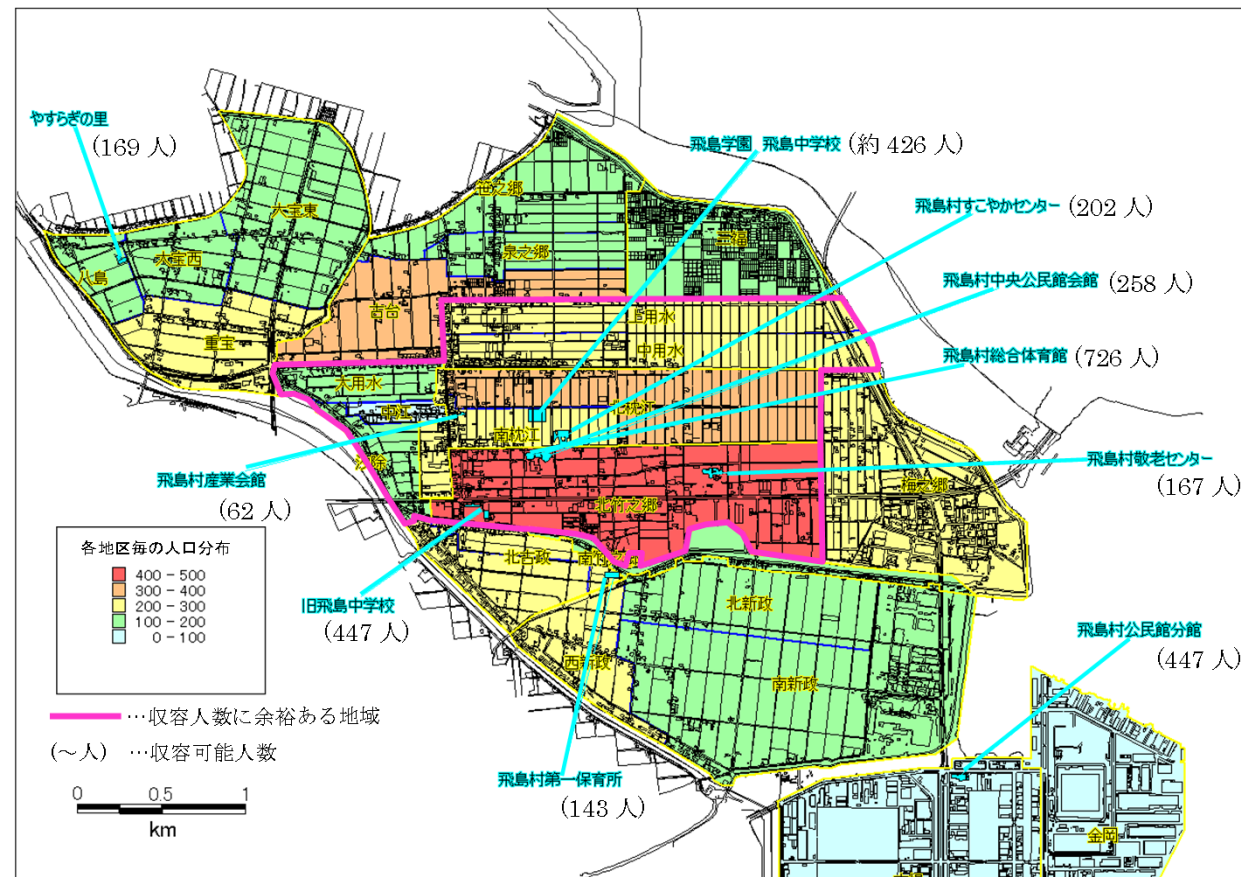


図-4. 現況の避難所の収容人数と人口分布 (1)

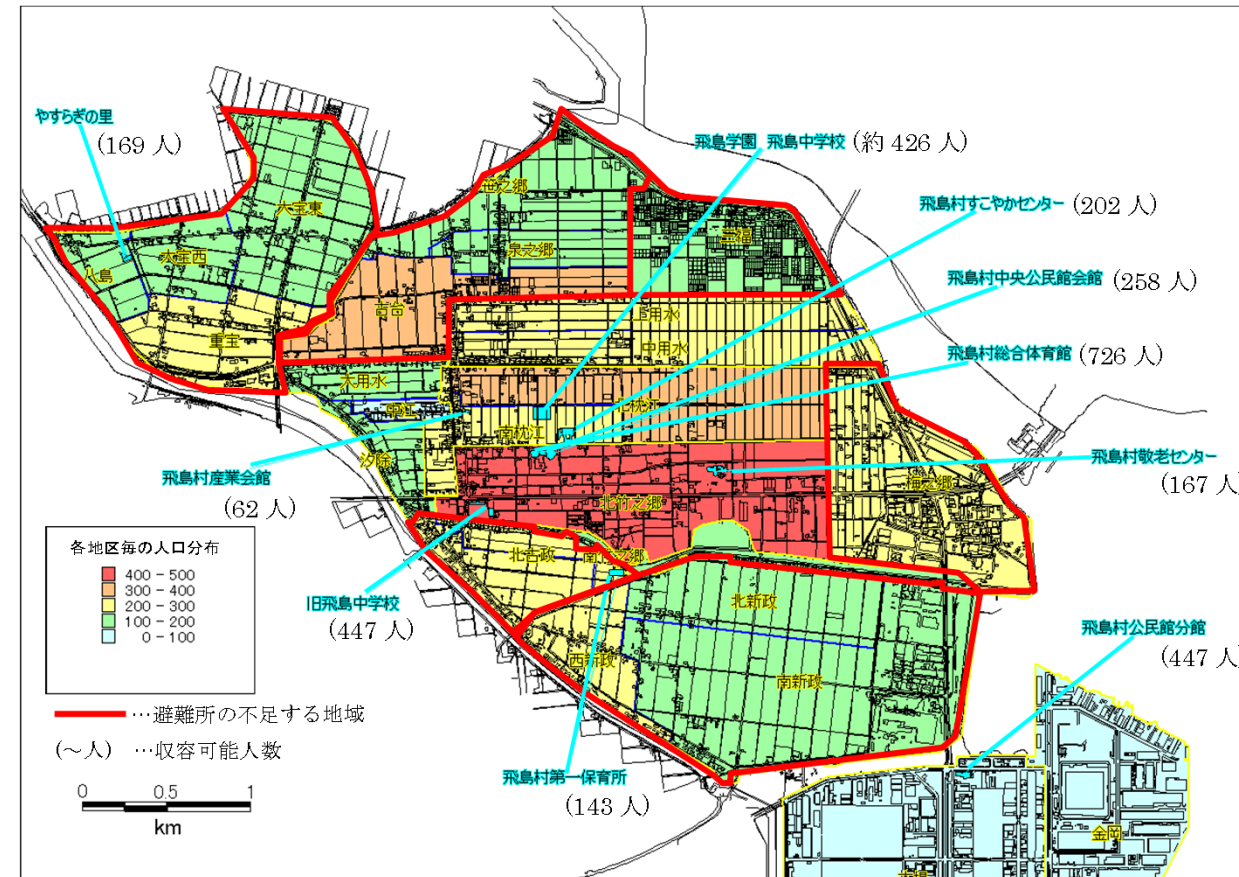


図-5. 現況の避難所の収容人数と人口分布 (2)

避難所選定

3. 各地域の避難所建設候補地

- (1) 避難所が不足すると想定される地域には、公共用地を新規の避難施設建設候補地とする。
- (2) 新規の避難所は、予め避難者が必要とする面積に応じたものを確保する必要がある。
- (3) 広域避難所まで一般的な避難距離とされる2.0kmを基準として各避難所建設候補地からのエリアカバー状況をみると、概ね村内全域をカバーしている。
- (4) 南部の臨海工業地域の人口は少ないものの、休日・夜間の来訪者に対する一時避難施設を確保する必要がある。

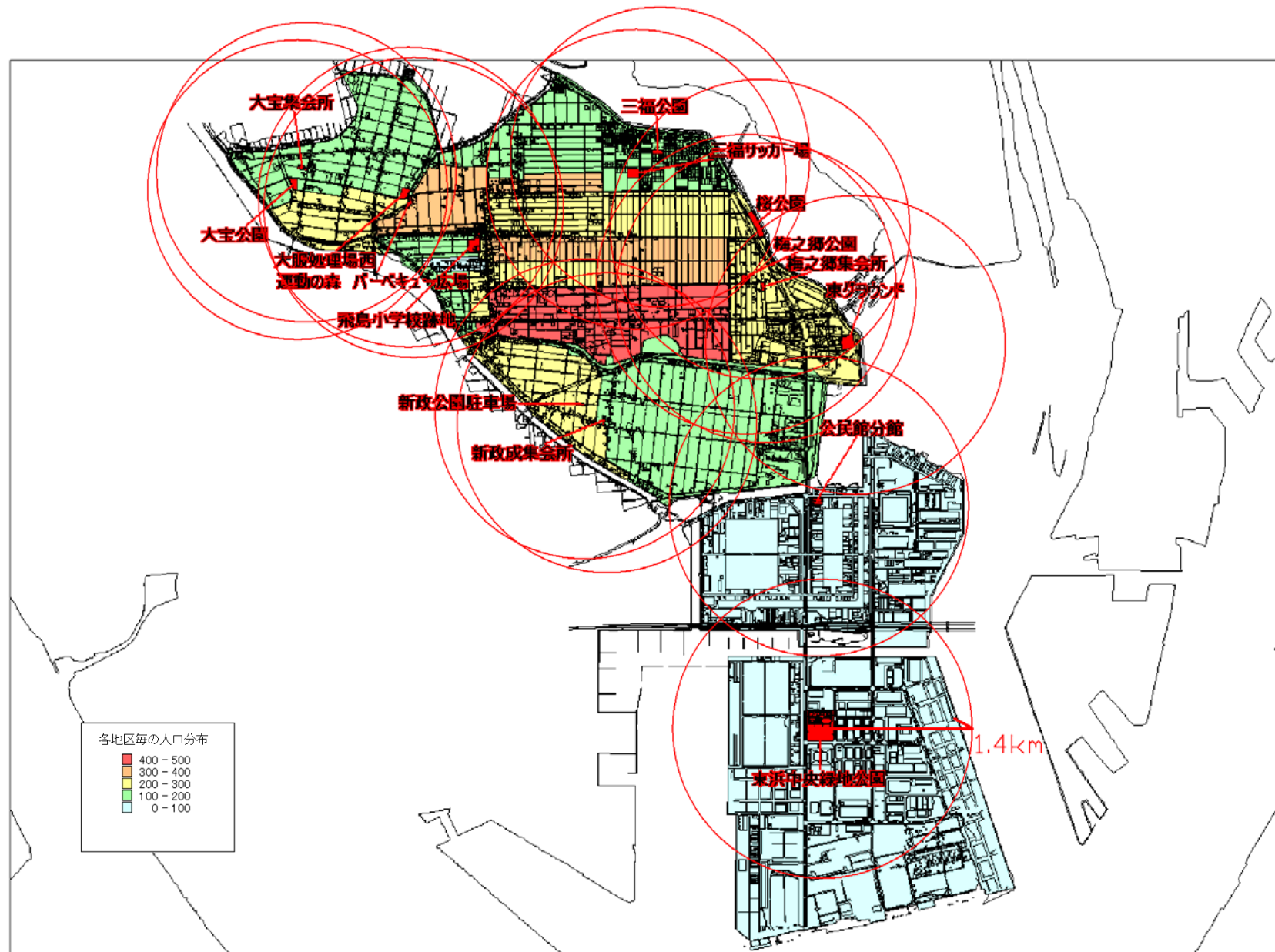
表-4. 避難所建設候補地一覧

ID	地点名	住所	地区名	概算敷地面積(m ²)	
				字	行政境界
1	大宝集会所	飛島村大宝1丁目	大宝	2,800	17,500
2	大宝公園	飛島村大宝1丁目	大宝	5,900	
3	大服処理場西	飛島村大宝6丁目	大宝	6,500	
4	運動の森 パーベキュー広場	飛島村大宝6丁目	大宝	2,300	
5	飛島小学校跡地	飛島村元起1丁目	元起	16,500	16,500
5	三福公園	飛島村三福2丁目	三福	3,500	11,800
6	三福サッカー場	飛島村三福3丁目	三福	8,300	
7	桜公園	飛島村渚8丁目	渚	13,000	18,500
8	梅之郷公園	飛島村梅之郷北梅	梅之郷	3,600	
9	梅之郷集会所	飛島村梅之郷北梅	梅之郷	1,900	
10	東グラウンド	飛島村梅之郷東梅4	梅之郷	14,200	14,200
11	新政公園駐車場	飛島村新政成4丁目	新政成	1,700	3,500
12	新政成集会所	飛島村新政成5丁目	新政成	1,800	
13	公民館分館	飛島村木場2丁目	木場	5,900	5,900
14	東浜中央公園	飛島村東浜1丁目	東浜	72,500	72,500

表-5. 各地域の人口に応じた避難所の概算必要面積

ID	字名	行政境界名	住民基本台帳人口 (外国人登録人口含む)	行政境界毎 人口	避難所における必要面積(※)		
					①(m ²)	②(m ²)	③(m ²)
1	大用水	元起	158	427	158	316	474
2	中江	元起	93	427	93	186	279
3	汐除	元起	176	427	176	352	528
4	南竹之郷	竹之郷	161	161	161	322	483
5	北竹之郷	竹之郷	461	461	461	922	1,383
6	南枕江	松之郷	212	520	212	424	636
7	北枕江	松之郷	308	520	308	616	924
8	中用水	渚	225	451	225	450	675
9	上用水	渚	226	451	226	452	678
10	梅之郷	梅之郷	236	236	236	472	708
11	三福	三福	132	132	132	264	396
12	笹乃郷	服岡	161	605	161	322	483
13	泉之郷	服岡	118	605	118	236	354
14	古台	服岡	326	605	326	652	978
15	大宝西	大宝	152	692	152	304	456
16	大宝東	大宝	173	692	173	346	519
17	重宝	大宝	231	692	231	462	693
18	八島	大宝	136	692	136	272	408
19	北古政	古政成	220	434	220	440	660
20	南古政	古政成	214	434	214	428	642
21	西新政	新政成	229	571	229	458	687
22	東新政	新政成	198	571	198	396	594
23	北新政	新政成	144	571	144	288	432
24	木場一丁目	木場	9	9	9	18	27
25	木場二丁目	木場	6	6	6	12	18
26	金岡	金岡	10	10	10	20	30
27	西浜	西浜	-	-	-	-	-
28	東浜	東浜	3	3	3	6	9
合計			4,718	4,718	4,718	9,436	14,154

※ ①…1m²/人 発災害直後の一時避難段階で座った状態程度の占有面積
 ②…2m²/人 緊急対応初期の段階で就寝可能な占有面積
 ③…3m²/人 避難所生活が長期化し、荷物置場を含めた占有面積



※ 図中の円の半径は、広域避難所までの一般的な避難距離とされる2.0kmを考慮して、直線距離で1.4kmとした。

図-6. 避難所建設候補地

避難所選定

4. 各地域の避難所建設候補地の浸水深

- (1) 現況の避難所と同様に、各建設候補地においても、浸水深は2.0m～3.0mに達する。
- (2) 浸水により1F部分に避難は不可能であることを前提とした避難所の確保が必要である。
- (3) 津波による浸水期間は長期に及ぶことが予想される。備蓄(食糧、水、寝具、電源、ラジオ)を十分考慮した避難所の確保が必要である。

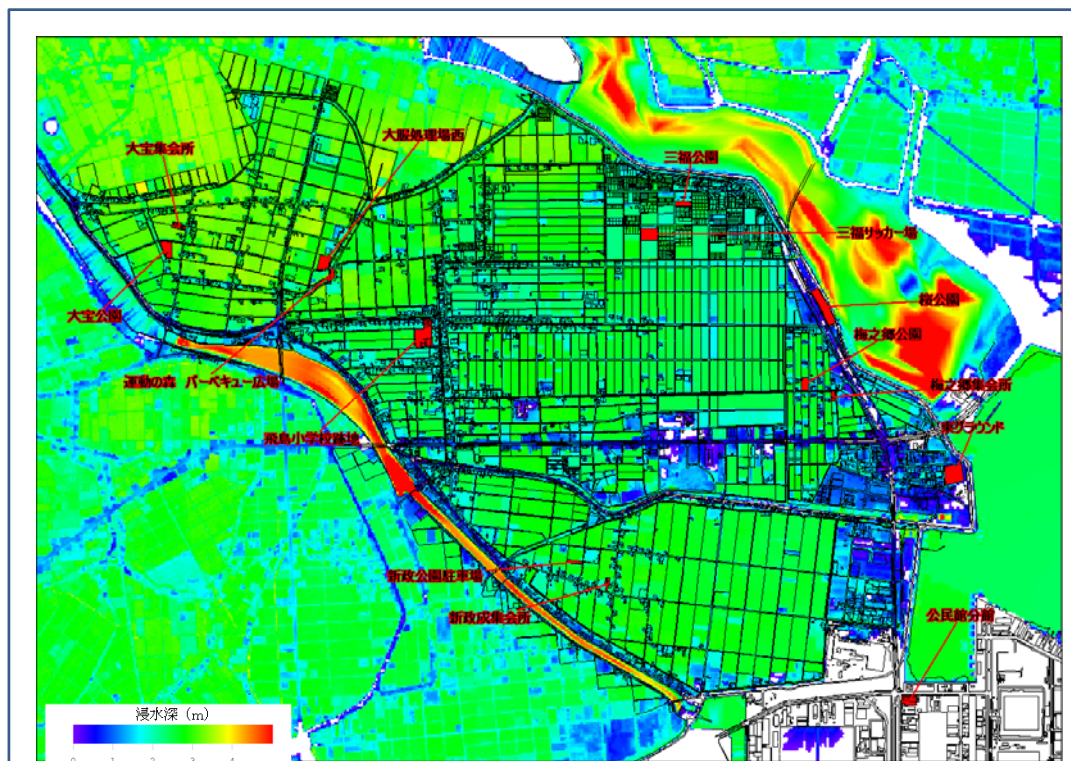


図-7. 避難所建設候補地の浸水深_Mw8.8 (1)

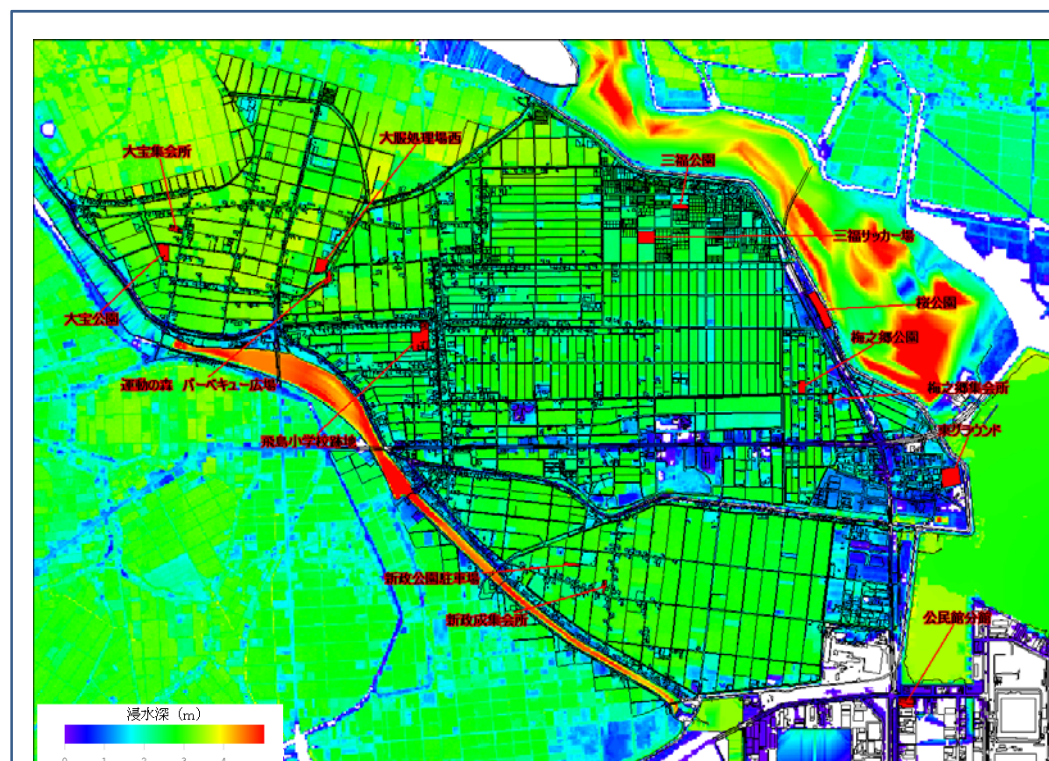


図-9. 避難所建設候補地の浸水深_Mw9.0 (1)

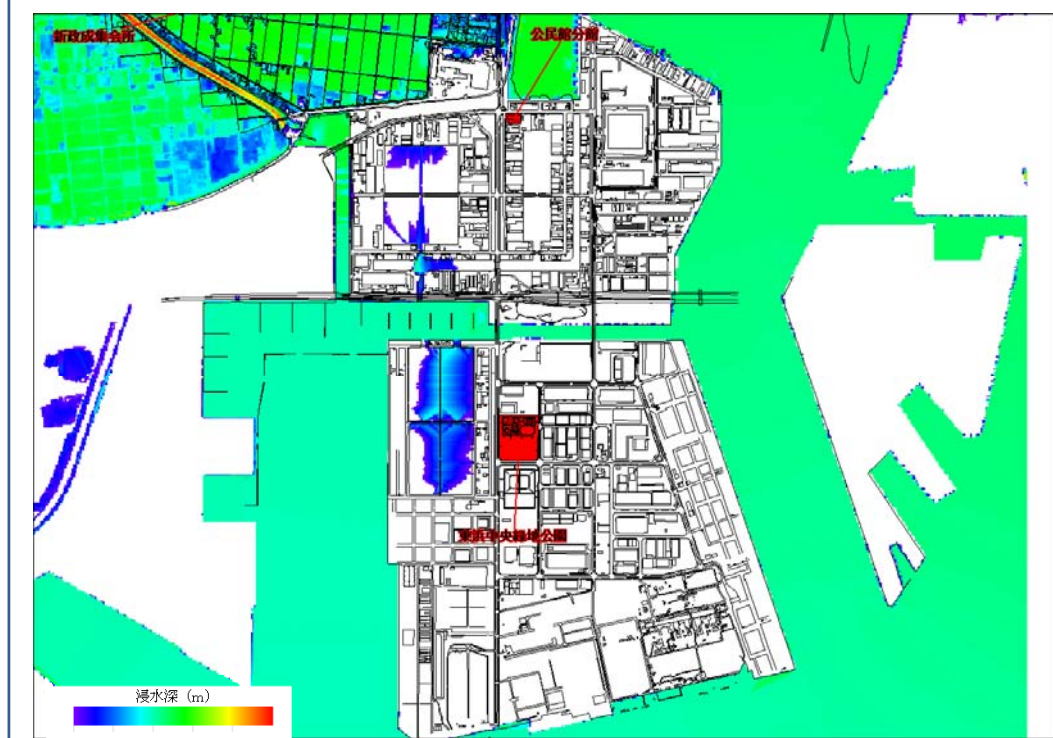


図-8. 避難所建設候補地の浸水深_Mw8.8 (2)

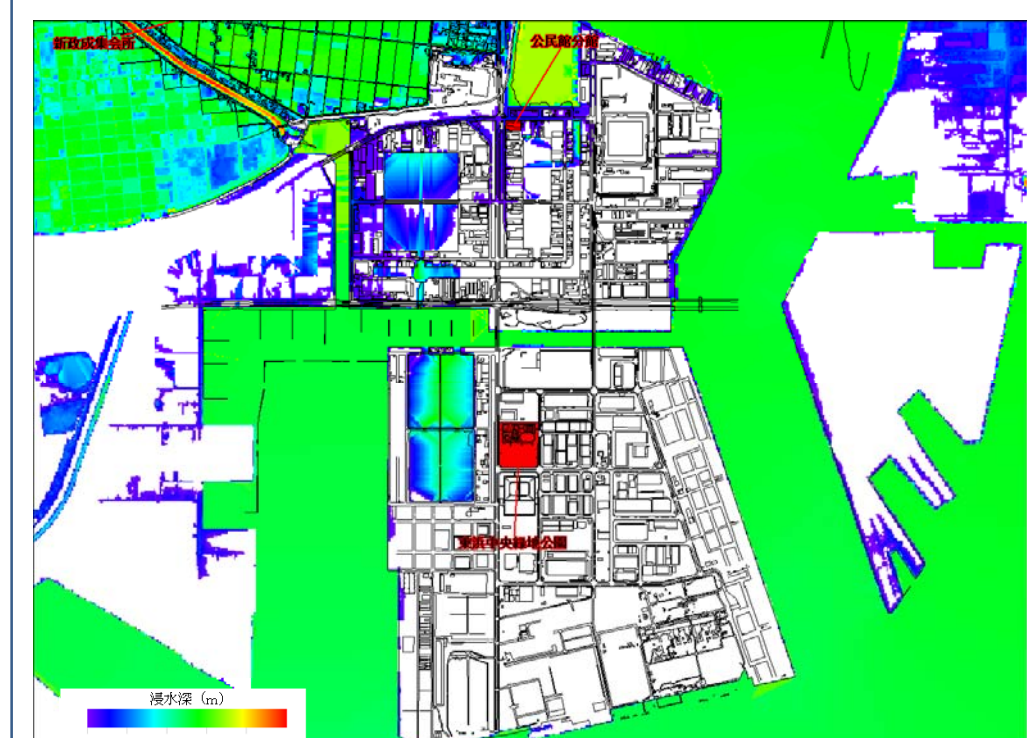


図-10. 避難所建設候補地の浸水深_Mw9.0 (2)

避難所選定

5. 避難所建設候補地の震度・液状化危険度

- (1) 東海・東南海・南海地震が発生したときの飛島村における震度は6弱程度と予想される。
- (2) 揺れについては建物被害に影響が大きい周期1～2秒が卓越した地震動が予測されるため、建物の耐震化が重要と考えられる。
- (3) 液状化危険度は、北部・南部共に軟弱な砂層が堆積していることから、村内全域で高くなることが考えられる。
- (4) 液状化により徒歩、車での避難行動は困難となることを考慮した避難計画の策定、避難路の整備が求められる。

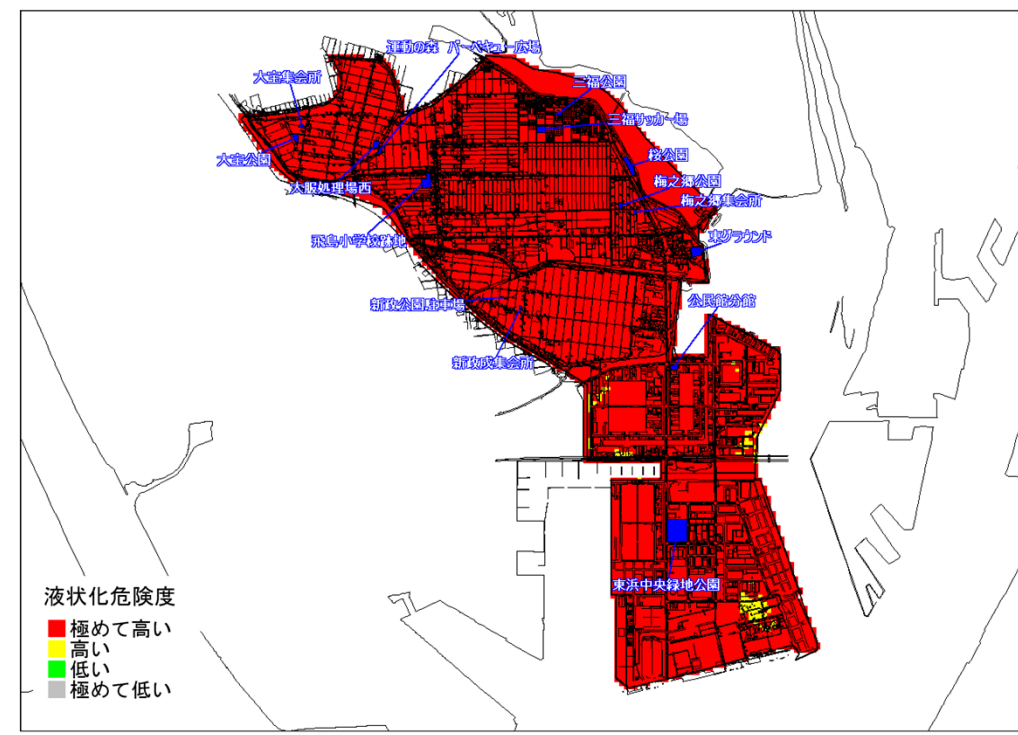
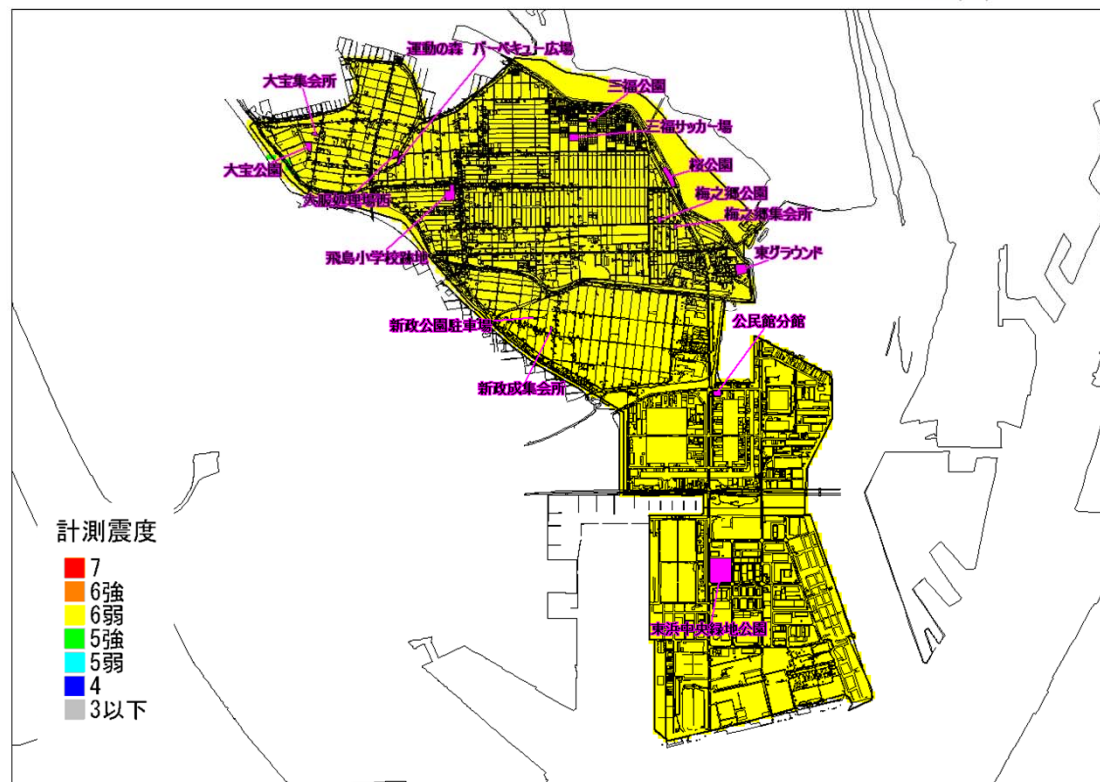
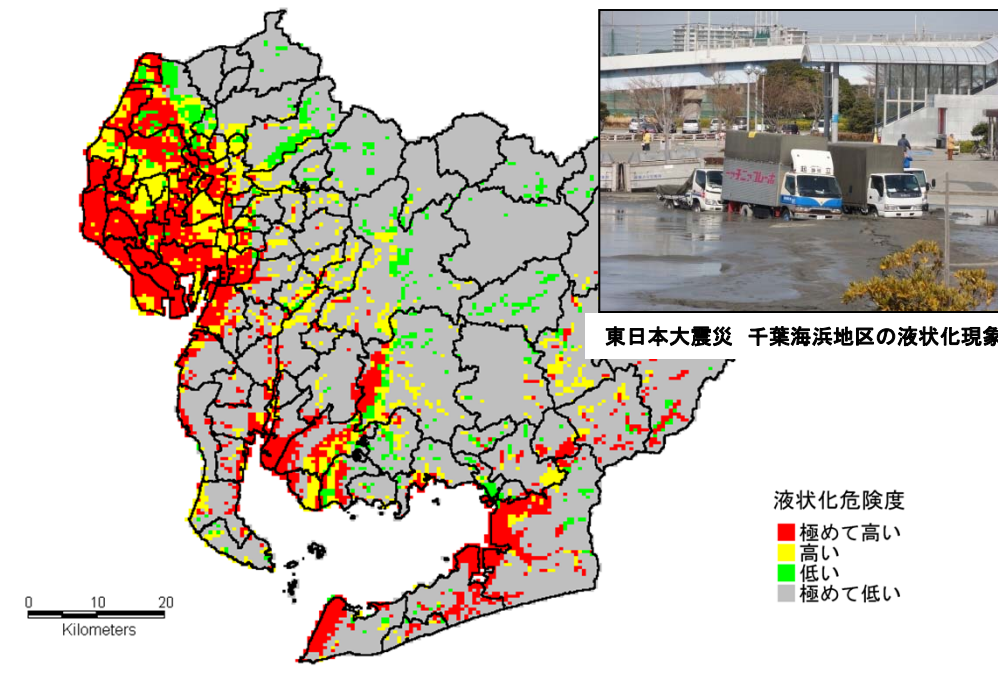
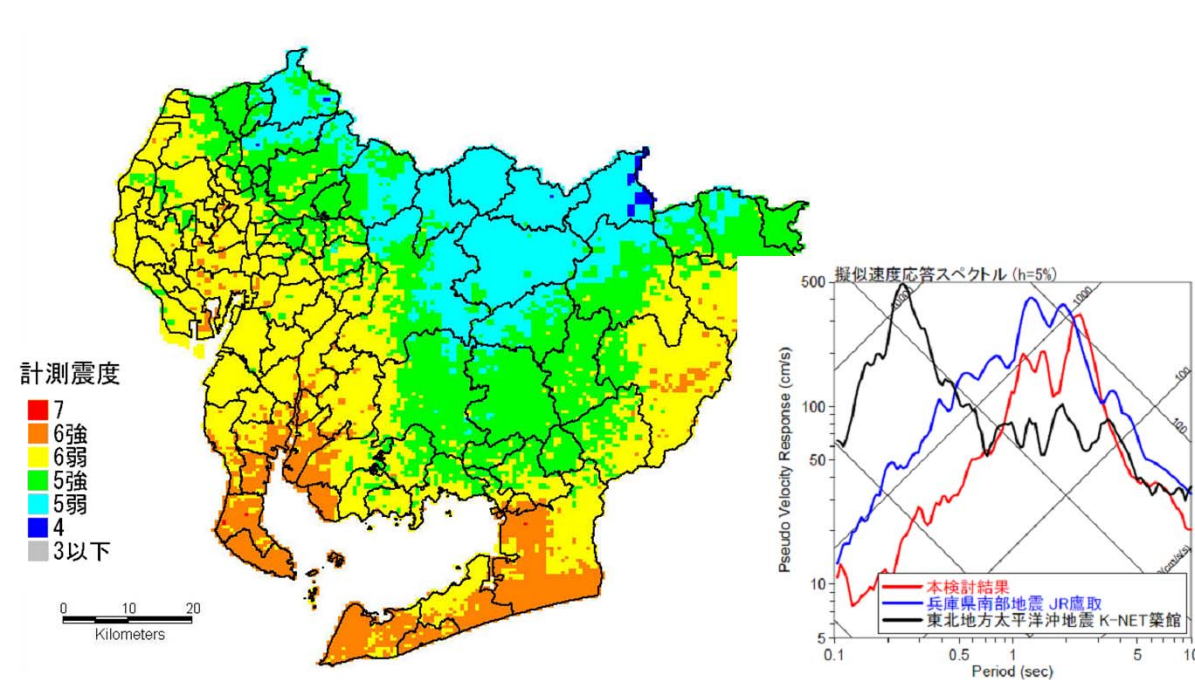


図-11. 避難所建設候補地分布および地表面における震度分布(上図は愛知県(2003)による)

図-12. 避難所建設候補地分布および液状化危険度(上図は愛知県(2003)による)

避難所選定

6.まとめ

1.想定される村内の浸水深と浸水期間

- (1) 堤防が全てが機能しないと仮定した場合、浸水域は村内の全域に及ぶ。
- (2) 現況の避難所の周辺は2.0m～3.0mの浸水深となる。

参考として、想定される浸水深及び、その浸水期間は伊勢湾台風時と同程度となる。

2. 現況の避難所について

- (1) 人口の多い地域(役場周辺)には、避難所が集中しており、当該地域の住民の収容には若干の余裕がある。
- (2) 大宝、古政成には避難所が存在するものの、収容人数が人口に対して不足している。
- (3) 梅之郷、三福、服岡、新政成には避難所が存在しない。

3. 各地域の避難所建設候補地

- (1) 避難所が不足すると想定される地域には、公共用地を新規の避難施設建設候補地とする。
- (2) 新規の避難所は、予め避難者が必要とする面積に応じたものを確保する必要がある。
- (3) 広域避難所まで一般的な避難距離とされる2.0kmを基準として各避難所建設候補地からのエリアカバー状況をみると、概ね村内全域をカバーしている。
- (4) 南部の臨海工業地域の人口は少ないものの、休日・夜間の来訪者に対する一時避難施設を確保する必要がある。

4. 各地域の避難所建設候補地の浸水深

- (1) 現況の避難所と同様に、各建設候補地においても、浸水深は2.0m～3.0mに達する。
- (2) 浸水により1F部分に避難は不可能であることを前提とした避難所を確保することが望ましい。
- (3) 津波による浸水期間は長期に及ぶことが予想される。備蓄(食糧、水、寝具、電源、ラジオ)を十分考慮した避難所の確保が必要である。

5.避難所建設候補地の震度・液状化危険度

- (1) 東海・東南海・南海地震が発生したときの飛島村における震度は6弱程度と予想される。
- (2) 揺れについては建物被害に影響が大きい周期1～2秒が卓越した地震動が予測されるため、建物の耐震化が重要と考えられる。
- (3) 液状化危険度は、北部・南部共に軟弱な砂層が堆積していることから、村内全域で高くなることが考えられる。
- (4) 液状化により徒歩、車での避難行動は困難となることを考慮した避難計画の策定、避難路の整備が求められる。